第 34 回　歴史探訪の会ご報告

開催日 2013 年 5 月 5 日
場所　和歌山県九度山町
探訪案内人　志野・柿沢　両氏
世話人（報告者）　　森　尚夫

「九度山　真田幸村ゆかりの地を訪ねて」

5 月 5 日は祭日、しかも晴天で九度山の駅も大変賑わっていました、参加者 34 名。
午前中は九度山周辺の名所・旧跡を巡りました。
九度山駅をスタートして直ぐに丹生川の橋に、端午の節句でもあり、川いっぱいに色とりどりの、鯉のぼりが空を優雅に泳いでいます、昔はこの橋下は水をせきとめて、プールにして泳いでいたそうです、第 15 回ヘルシンキ大会平泳ぎの青木政代選手他、輩出しています。

「九度山」・「慈尊院」について

世界遺産登録、高野山の表参道 180 町石の内、一町石は「慈尊院」から始まる、弘法大師の母公が晩年移り住み、没後、弥勒堂が建立され、女人禁制の高野に対し「女人高野」と呼ばれ親しまれてきました。

弘法大師は月に 9 回高野山からお母さんに会いに来た事から、この地を「九度山」と名付けたと言われています。弥勒菩薩を別名「慈尊」といい、そこから慈尊院と云います。
「ゴン」と云う賢い犬がいて高野山参詣の登山者の道案内をしたので有名になり石碑までありました。
（この内容について 5/17 日 NHKBS プレミアム、新日本風土記、「日本の犬」で紹介されていました。

「丹生官省符神社」
慈尊院から 119 段の石段のぼった所にありこれも弘法大師が慈尊院の守り神として祀った神社、僧が御経をあげていたらしい。

「勝利寺」

丹生官省符神社から 200m程行くと弘法大師の厄除け観音を祭る「勝利寺」、名前からして昔は武士・貴族らの参詣者で賑わった、高台から紀ノ川を望み静かな雰囲気の寺でした、九度山の和紙、美の紙工房が開催写真でご覧下さい。

昼食を寺内の木蔭で頂き、昼からのコース真田幸村の歴史を紙芝居にまとめて頂き楽しく聞きました。

「真田幸村行列出陣式」

広場で真田十勇士の出陣は大太鼓を合図にスタート、一足先に真田の抜け穴、大阪城に通じる穴と云われていましたが、実は古墳である、・・・

「眞田庵」

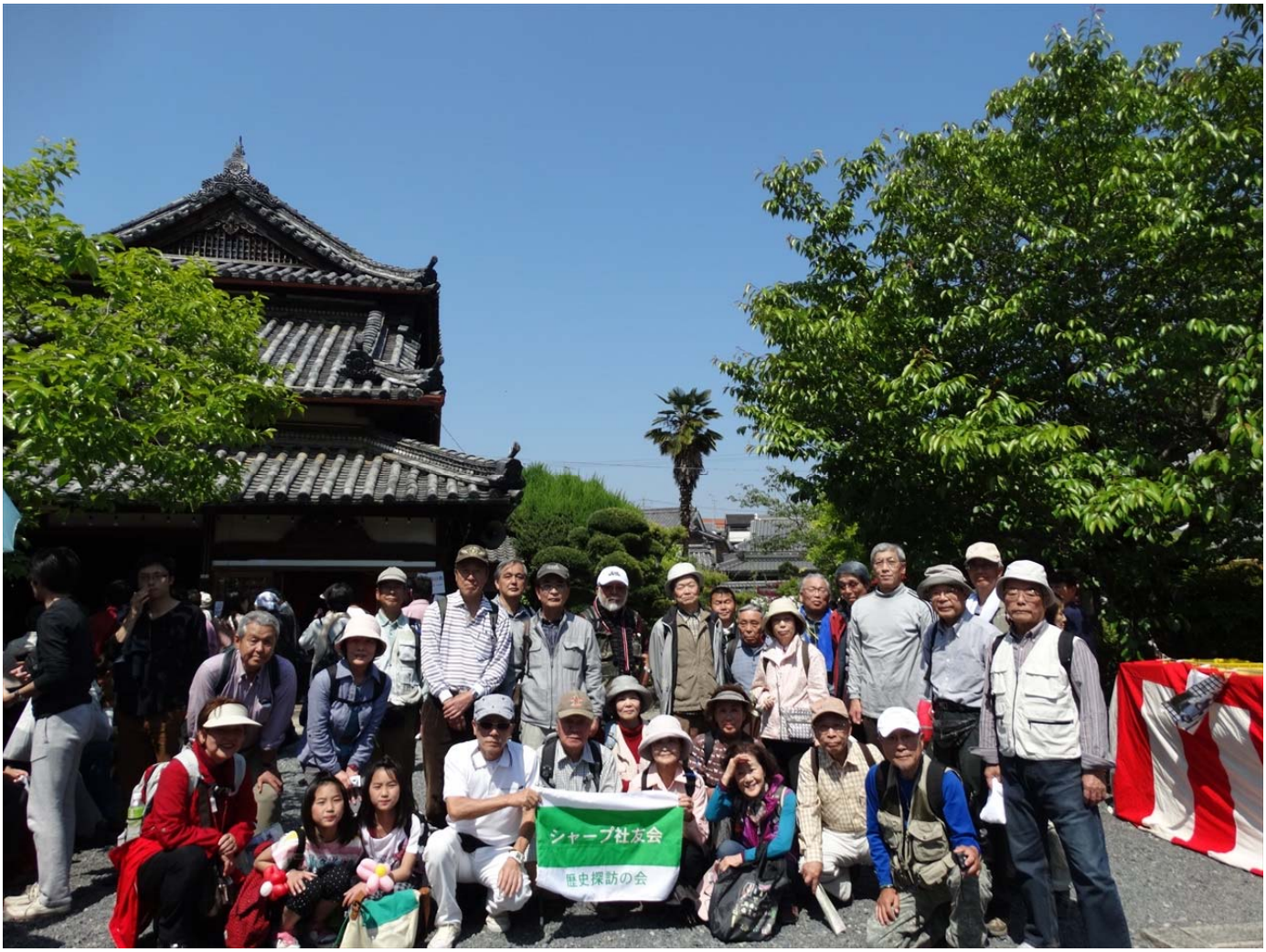
真田昌幸・幸村が閉居した屋敷跡に建つ寺院幸村の旗印六文銭が刻まれた門をくぐると本堂があり、高野山から法要に来た坊さん 60～70 名が法話を聞いていました、街中は托鉢・虚無僧があちこち。

「真田幸村」

本名真田信繁は安土桃山時代から江戸時代初期の武将、武田信玄の家臣であった真田幸隆の孫で、真田昌幸の二男。江戸時代初期の大阪の役で活躍、特に大阪夏の陣では徳川家康の本陣まで攻め込み、徳川家康を追い詰めた日本一の勇猛な名将と云われる。しかし信繁の人柄は柔和で辛抱強く、物静かで怒るようなことはない、勇猛な武将のイメージとはかけ離れたものでした。

信繁の率いる軍は鎧を赤で統一（真田の赤備え）と徳川家康から恐れられ、最後まで豊臣に忠義をつくした名将として、講談等で流布、真田十勇士に繋がる、主に上がる名前は、猿飛佐助・霧隠才蔵・根津甚八・由利鎌之助・筧十蔵・三好清海入道・三好伊三入道・望月六郎・海野六郎・穴山小介（幸村の息子である真田大助を入れる事もある）　真田十勇士の行列は写真でご覧下さい。

眞田庵で解散直ぐ駅に向かい高野山に帰るお坊さんの行列を見に急ぎましたが間に合わず昨年撮っておきました写真掲載しておきます。


シャープ社友会
歴史探訪の会